



English Y Year 2004 実施報告書

国際室

“English Year 2004”実施報告書

English Year 2004 は、2004 年 4 月から 2005 年 3 月までの1年間、東京工業大学国際室に設置された「English Year 2004 実行委員会」を中心に、全員参加型で英語が visible なキャンパスを創造し、全学的に English consciousness を高めることを目的として、外国語研究教育センター、留学生センター他全学的な協力のもと実施された。

計画された事業はそれぞれ、大枠として、1. インフラ整備、2. イベント、3. 英語関心強化、4. グッズに4分類され、各分類の中で実施された事業をまとめた。

また、それぞれに関するより詳しい資料は末尾に添付した。

1. インフラ整備

実施を予定していたのは、(1) インターナショナル・コミュニケーションズ・スペースの開設、(2) English Pub の設置、(3) ニュースレターの刊行、(4) 大型英語看板の設置であった。

このうち実現したのは、(1) および(3)であった。

(1)	事業名	HUB-International Communications Space(インターナショナル・コミュニケーションズ・スペース)。
	目 的	本学学生及び教職員の国際コミュニケーション能力の向上及び国際交流の推進に寄与する。
	概 要	1. 開所日：2004年6月25日 2. 場所：大岡山キャンパス・西9号館1階ピロティ 3. 利用可能時間：9時5分～17時(毎週月曜日～金曜日) 4. 利用対象者：本学の学生及び教職員 5. 設備内容： (1) ニュースルーム：大型画面のプラズマTVでCNN, BBCのニュースを常時放映 (2) コモンルーム：情報交流の場として活用可能。海外の雑誌を設置 (3) コミュニケーションズルーム：DVD鑑賞可能 パソコン(15台設置)利用可能 6. 担 当 者：国際企画員・パルバース、WG 7. 運営体制：受付スタッフ2名(非常勤職員)、外国人留学生アルバイト1名
	備 考	1. 利用者の多くは留学生であり、利用する者が限られてきている(多くがパソコン利用者である)。日本人が少ないのは、施設内の使用言語を英語としているのが利用の障壁となっているのかもしれない。また、学内に認知してはいるが、多くの方が利用できるようにより広報に努める必要がある。

なお、(3) 英文ニュースレター(Tokyo Tech International)は、大学(広報・社会連携センター)により刊行され、平成16年度は3回発行されている。

2. イベント

実施を予定していたのは、(1) Roger's Wednesday Forum (水曜英語フォーラム)、および(2) Monthly E-cinema であり、前者は計16回、後者は14回開催(大岡山キャンパス及びすずかけ台キャンパスの合計上映回数)した。また、(3) 留学フェア、(4) 外国人研究者等との懇談会については、ここ数年続けて開催しているものであるが、2004 年度は English Year 2004 の関連事業として広報等を行い、さらなる浸透を図った。

また、(1)から(4)に加えて、(5)国際デザインコンテスト(IDC)学生交流フォーラム、(6)国際ボランティアの説明会及び報告会、(7)留学生による「私の国、私の大学」発表会、(8)国際ワークキャンプ報告会を実施することができた。

	事業名	Roger's Wednesday Forum(水曜英語フォーラム)
	目 的	毎回、学生・教職員の自発的な参加者を対象に、形式にとらわれず、frankなスピーチを楽しむ。
(1)	概 要	1. 回 数: 前期8回(4/21, 5/12, 5/26, 6/2, 6/16, 6/30, 7/7, 7/14) 後期8回(10/13, 10/27, 11/10, 11/17, 11/24, 12/1, 12/8, 12/15) 2. 場 所: 前期5回までは、大岡山キャンパス・スロープで開催 6月30日からは、ICSのコモンルームで開催 3. 時 間: 6月16日までは、12時30分～13時00分 6月30日からは、12時30分～13時15分 4. 内 容 : (1)当初はトピックスを設定していなかったが、学生の要望に応じて、 前期3回目(5月26日)から、予め話題を知らせるように方針を変えた。 (2)前期は、日本の文化などを取り上げた。後期は、米国の大統領選挙などを取り上げた。 (3)毎回、最も議論に貢献した者に対して、Best Contribution Awardとして、 記念品(マグカップ)を贈呈した。 5. 担 当 : 国際企画員 ロジャー・パルバース
	備 考	1. 回を重ねるごとに、参加者が増えるようになった。特に、16年度最終回となった12月15日(テーマ『宗教は今』)、椅子が足りないほど盛況であった。 2. 参加した学生たちから、来年も是非、開催して欲しいという要望があった。

(2)	事業名	Monthly E-cinema
	目 的	映画を字幕なしあるいは英語字幕で鑑賞し理解することによって、英語を学ぶ
	概 要	1. 場 所 : (1)大岡山キャンパス・大岡山デジタル多目的ホール (2)すずかけ台キャンパス・すずかけホール 2. 上映日 : (1)大岡山キャンパス(4/26(月), 5/27(木), 6/21(月), 7/9(金), 10/27(水), 11/24(水), 12/20(月)) (2)すずかけ台キャンパス(4/27(火), 5/26(水), 6/23(水), 7/12(月), 10/28(木), 11/25(木), 12/21(火)) 3. 時 間 : 17 時開始 19 時 30 分頃終了

(2)	概 要	4. 作 品 : ①Bowling for Columbine(4/26, 5/26)、②A River Runs Through It (4/27, 5/27)、③2001 年宇宙の旅(6・21)、④或る夜の出来事(6/23)、⑤マトリックス(7/9)、⑥黄色いリボン(7/12)、⑦ラストサムライ(10/27, 10/28)、⑧オーシャンズ11(11/24)、⑨エリンブロコビッチ(11/25)、⑩ビューティフルマインド(12/20, 12/21)の10作品。①は字幕なしで上映した。②～⑩は、英語字幕ありで上映した。 5. 担 当 : 国際企画員・斎藤礼子, 人文図書室深田明子(他学生スタッフ)
	備 考	1. 広報用のチラシ・HP 等では、English Year 2004 の催しである旨表示していたが、English Year 2004 の一環として行われていることを知らない学生、教職員が多かった。 2. 著作権法の関係から、上映できる作品に限りがあり、必ずしも訴求対象の作品を毎回上映することができなかった。また、配給会社との交渉も非常な困難を伴った。 3. 学生スタッフ(有志)の自主性が発揮された。

(3)	事業名	留学フェア
	目 的	学生の海外留学, 海外研修などを促進する。
	概 要	1. 日時及び場所 (1)5月19日(水) 14時30分～17時・すずかけホール (2)6月2日(水) 15時～17時30分・大岡山西9号館デジタル多目的ホール 2. 内 容 (1)全体説明 ① 派遣留学、インターンシッププログラム参加者による体験談 ② TOEFL、その他海外プログラム情報 ③ イギリスへの留学について(大岡山のみ) ④ 協定校への派遣留学と各種海外プログラムの説明(留学生課) ⑤ 2004年夏の国内、海外英語研修プログラム他について(留学生センター) (2)ブース別の個別相談 ① すずかけ台 16:00～17:00 ② 大岡山 16:30～17:30 3. 参 加 人 数: (1) すずかけホール 約60名 (2) 大岡山デジタル多目的ホール 約150名 4. 担 当 者: 国際企画員 佐藤 由利子, 留学生課 他
	備 考	1. 想定していたよりも参加者が多かった。また、個別相談を設けたのが良かった。 2. より多くの学生に海外留学などを後押しする為にも、継続して行う必要がある。

(4)	事業名	外国人研究者との懇談会
	目 的	懇談会を通して、外国人研究者等と親睦を図る。
	概 要	1. 日 時 : (1)2004年6月8日(火)、(2)2005年1月11日(火) 2. 参加人数 : (1)108名 (2)141名 3. 担 当 者 : 国際事業課国際事業企画係長 江里口 真由美
	備 考	1. 双方において活発な意見交換が行われた。

(5)	事業名	国際デザインコンテスト(IDC)学生交流フォーラム
	目 的	「国際デザインコンテスト(IDC)および創造教育シンポジウム」(通称:国際ロボットコンテスト)が本学で開催されるのを機に、世界7カ国の学生と東工大の日本人学生および留学生が集まり、各国の学生生活などをお互いに紹介し、相互理解を深める。
	概 要	1. 日時及び場所: 8月16日(月) 17時30分～19時 大岡山100年記念館フェライト会議室 2. 内容: 各国学生がブースで、それぞれの国の大学、学生生活などを紹介した。 3. 参加人数: 約80名 4. 担当者: 国際企画員 高橋 邦夫
	備 考	1. 各ブースを設け、また、学生実行委員に企画段階から関わってもらったことが成功につながった。

(6)	事業名	夏の国際ボランティアプロジェクト帰国報告会及び春のエコ・ボランティア in オーストラリア説明会
	目 的	海外で、世界中から来た人たちと一緒にボランティア活動をし、共同生活を送ることで、文化を超えお互いを理解する。つまり、異文化交流を通じて実践的な英語力を向上させ、視野を広げる(主催:CIEE 共催:東京工業大学)
	概 要	1. 日時及び場所:10月27日(水) 15時30分～16時30分 大岡山西9号館2階コラボレーションルーム 2. 内容: 参加者4名が体験談を発表 3. 担当者: 国際企画員 佐藤 由利子
	備 考	1. 就職説明会等と重なり、参加者数は少なかったが、活発な質疑応答が行われた。 2. 学生自身にどのようなメリットがあるのかを十分理解してもらうためにも、今回限りではなく、引き続き開催する必要がある。

(7)	事業名	協定校留学生・東工大生による「私の国、私の大学」発表会
	目 的	国・地域を越えての相互理解・国際交流を深める為
	概 要	1. 日時及び場所: (1)11月17日(水) 10時40分～12時10分 大岡山西9号館 W932 (2)11月24日(水) 10時40分～12時10分 大岡山西9号館コラボレーションルーム (3)12月1日(水) 10時40分～12時10分 大岡山西9号館コラボレーションルーム (4)12月8日(水) 10時40分～12時10分 大岡山西9号館コラボレーションルーム

(7)	概 要	2. 参加大学: ミュンヘン工科大学(ドイツ)、バンドン工科大学(インドネシア)、韓国科学技術院(韓国)、メルボルン大学(オーストラリア)、シドニー工科大学(オーストラリア)、ヘルシンキ工科大学(フィンランド)、シャリフ工科大学(イラン)、モンゴル科学技術大学(モンゴル)、ストラスクライド大学(イギリス)、国立芸術工科大学(フランス)、ハノイ工科大学(ベトナム)、他9大学 3. 担当者:国際企画員 佐藤 由利子
	備 考	1. 例年実施している企画であるが、今年度は English Year 2004 の一企画という位置づけで広報し、開催した。

(8)	事業名	国際ワークキャンプ報告会
	概 要	1. 日 時: 2005年2月28日(月)・15時～17時 2. 場 所: インターナショナル・コミュニケーションズスペース(ICS) 3. 参加人数: 8名(報告者2名) 4. プレゼンテーション(英語)＋懇談会の形式で開催された。 5. 担 当 者: 国際室企画員 佐藤 由利子
	備 考	1. ボランティア活動を身近に感じることができたという意見があった。 2. 関連する報告会の中に組み入れてもよいのではなかろうか。

3. 英語関心強化

実施を予定していたのは、(1)イングリッシュ・スピーチコンテスト、(2)TOEFL・TOEIC コンペティション、(3)TOEFL-ITP 試験の試行、(4)英語集中研修(①シドニー工科大学の教員による英語集中講義、②留学生センター主催による英語集中研修、③第4回オーストラリア英語研修プログラム)であったが、それ以外にも、(5)イングリッシュ・スピーキング・クラブを実施することができた。

(1)	実施名	イングリッシュ・スピーチコンテスト
	目 的	学生の英語での発言力を評価する。
	概 要	1. 日時及び場所: 12月8日(水)・百年記念館3階フェライトホール・17時～19時 2. 最終選考人数: 12名(合計参加人数・43名, 第一次予選通過者:32名)。 3. 発表時間: 4分～5分。 4. テーマ: (1)から(3)の何れかを選ぶ。 (1)科学と社会、(2)日本と世界、(3)異文化間コミュニケーション 5. 賞品: 学長賞1名(往復航空券・英語圏)、優秀賞4名(電子辞書)、 努力賞4名(フラッシュメモリ)、参加賞(英英辞書) 6. 担当者: 外国語研究教育センター・Morton 教授、池田教授 他
	備 考	学生のスピーチが非常に優れていた。最終予選通過者は、全員が学長賞に値する高レベルな発表を行った。

(2)	実施名	TOEFL・TOEIC コンペティション
	概要	1. 平成16年4月から11月までの期間に、TOEFL 或いは TOEIC を2回以上受検した学生の中から、成績優秀と認めるものを表彰し、オーストラリア、英国等における2週間程度の研修費用の一部補助などを行う。 2. 担当者:国際企画員・高橋, パルバース
	応募資格	1. 本学正規生(大学院生, 学部生)。 2. 英語を母語としない者で、英語圏の高等教育機関の学位を持たない者。 3. 指定期間内に試験を2回以上受検し、スコアの提出が可能な者。
	備考	1. 申込者42名(日本国籍39名, インドネシア1名, マレーシア1名)。 2. 最優秀賞者2名。優秀賞2名(記念品は電子辞書)。参加賞38名(記念品はマグカップ)。English Year WG で選考原案を作成し、国際室会議で審議、承認した。

(3)	実施名	TOEFL-ITP試験(生協が主催)
	概要	1. 日時: 6月30日、8月4日 2. 担当: 国際企画員・佐藤由利子
	備考	受検者数は、例年とほぼ変わらず。

(4)	実施名	シドニー工科大学・東京工業大学合同 英語集中講義 科目名: Engineering Communication C/D (各2単位)
	目的	大学院生の英語コミュニケーション能力と、特に、英語発表能力の向上に資すること
	概要	1. 日程等: 9月20日(月)～25日(土)の6日間 午前9時～午後2時50分 2. 場所: 石川台1号館2階、西1号館1階 3. 形態: 全日講義、グループ発表、個人発表。コースは習熟度別の2コース。 4. 参加人数: 25名 5. 担当: 室長補佐・廣瀬 幸夫
	備考	1. 受講生から、「グループ作業、プレゼンテーションの実習を通して英語力と発表力の双方が習得できた」という声が多かった。

(5)	実施名	イングリッシュ・スピーキング・クラブ
	目的	グループ形式で楽しみながら英会話を学ぶ。
	概要	1. 開催日: 11/11, 11/18, 11/25, 12/02, 12/09 の5回 2. 開催場所: インターナショナル・コミュニケーションズ・スペース、COMMONルーム 3. 時間: 木曜日 12:30～13:15 4. 担当: 外国語研究教育センター・ガーヴィン・ペラム教授
	備考	1. 派遣留学を希望する日本人学生などを中心に、平均すると、毎回12名ぐらいが参加していた。話題は、予め用意されていた。 2. 発言は圧倒的に留学生が多かった。

4. グッズ

右掲のマーク(English Year 2004 ロゴ)を基に、ステッカー、マグカップ、Tシャツを作成した。

作成した物	1. ステッカー(4,000枚) 2. マグカップ(150個) 3. Tシャツ(100枚)
使用用途	1. 平成16年度新入生(学部、大学院)全員にステッカーを配布。 2. 留学生歓迎パーティ学生スタッフ(マグカップ配布)、3. 水曜英語フォーラム(発言優秀者/マグカップ)、4. 国際デザインコンテスト(Tシャツ配布)、5. TOEFL/TOEIC コンペティション参加者(マグカップ配布)、6. インターナショナル・コミュニケーションズ・スペースでの展示用、7. 国際室関係者(シール、マグカップ、Tシャツのそれぞれを配布)
担当者	国際企画員・斎藤礼子
備考	English Year 2004 の浸透に一定の効果があつた。このうちマグカップが非常に好評であつた。



最後に

English Year 2004 の1年間に開始した事業のうち、次のものについては、国際室、担当組織、あるいは国際室と担当組織の共同で、平成17年度以降の継続が予定されている。

- English Speaking Club(外国語研究教育センター Garvin Perram 教授)
- English Speech Contest(外国語研究教育センター)
- TOEFL/TOEIC Competition(国際室)
- Roger's Wednesday Forum(外国語研究教育センター Roger Pulvers 教授)
- 英語関心を高めるための HUB-International Communications Space の維持管理(国際室)

資料編

1. English Year 2004 実行委員会名簿
2. English Year 2004 企画書(抜粋)
3. HUB-International Communications Space 利用の手引き
4. HUB-International Communications Space 利用状況調査(2004年6月～2005年3月)
5. Monthly E-cinema 上映ポスターおよび参加者アンケート結果
6. 留学フェア報告書
7. イングリッシュ・スピーチコンテスト報告書(外国語研究教育センター池田教授および Morton 教授)および優秀賞受賞者等のスピーチ原稿
8. シドニー工科大学・東京工業大学合同 英語集中講義
9. TOEFL・TOEIC コンペティション報告書